

「科学技術イノベーション創出と大学教育改革のための緊急アピール ～大学ファンド等による資金投入を研究力強化につなげるための提言～」 について

1. アピールの主体及び公表方法等について

- (1) 主体：緊急アピールに記載の有志一同（全国各地の国公立大学の教員 17名）
- (2) 公表方法
 - ① Webサイトに掲載 <https://dber.jp/appeal/>
 - ② 関係各方面へ送付（政府・関係機関・大学団体・経済団体等の関係役職者 64人）
- (3) 公表日：2022年8月22日（Webサイトに掲載するとともに、関係各方面へ発送）

2. アピールの趣旨

日本の科学研究の低迷に対する危機感から、大学の研究力の強化及びイノベーションの創出という目的のために巨額の資金を投じようとする政府の意志を歓迎する。

しかし、科学研究を支える足腰とも言うべき大学教育・大学院教育の構造問題を直視して克服することなくしては、巨額の資金投入が所期の成果をもたらすことは困難である。

ついでに、研究力強化とその基盤となる人材育成のために必要な改革及びその具体策を提言するものである。その主眼は、少数の大学（国際卓越研究大学）よりも全国の人材（博士課程学生及び若手教員）に着目した資金投入、人への投資が不可欠かつ有効であることを説くことにある。

3. 提言の要旨

- (1) 日本の研究力強化のためには、**研究力を支える足腰とも言うべき大学教育・大学院教育**が抱える根本問題を直視し、**少数の大学よりも全国の人材育成を支援する人への投資**が不可欠。
- (2) **研究室が学部生・修士生のマンパワー頼み**では、**博士課程学生とポスドクを研究室の主戦力とする海外の大学には太刀打ちできない**。**博士課程学生の飛躍的増加が必要**。
- (3) そのため、博士のキャリア不安を取り除きながら博士課程学生を増やすことのできる制度として、**採用後の社員を大学院へ派遣する制度を公費で創設**することを提言。
- (4) 我が国の研究力強化のためには、**国際卓越研究大学よりも博士課程学生・若手教員等の人材に厚く資金配分すべき**ことを提言。さもないと、**大学間ヒエラルキーが固定化し、人材の流動性と自由な競争的環境が阻害**され、日本の研究力の一層の低下につながる恐れを指摘。
- (5) 学部生・修士生を囲い込む**徒弟制的な研究室教育（卒業研究や論文指導）に依存**、**コースワーク（授業科目の学修）が不十分**。**研究力の基礎を培うコースワーク強化**を提言。
- (6) **学修成果のエビデンス（科学的根拠）に基づく授業変革**により、**コースワークの質を向上**させるため、**学問分野ごとの教育専門家を育成・配置**することを提言。
- (7) 研究成果へのプレッシャーが教員から学生に及ぶいわゆる**ブラック研究室を防止**するため、**無給の労働力ではなく教育を受ける権利の主体としての学生の保護**の考え方を提言。
- (8) 国際卓越研究大学は、**事業成長よりも研究成果の創出を優先すべき**ことを提言。

【問合せ先】

科学技術イノベーション創出と大学教育改革のための緊急アピール 有志一同
世話人 大森 不二雄（東北大学 高度教養教育・学生支援機構 教授）
Email: fujio.ohmori.e7@tohoku.ac.jp